



DMEセットアップマニュアル

Version 3.8

このセットアップマニュアルでは、ヤマハDMEシリーズ(DME64N/DME24N/DME8i-C/DME8o-C/DME4io-C/DME8i-ES/DME8o-ES/DME4io-ES)の初期設定から、コンピューターにインストールしたDME DesignerとDMEを同期させてオンラインにするまでの手順を説明しています。

NOTE 本書では、以下「DME」と表記している場合は、DME64N/DME24N/DME8i-C/DME8o-C/DME4io-C/DME8i-ES/DME8o-ES/DME4io-ESを示します。「DME Satellite」と表記している場合は、DME8i-C/DME8o-C/DME4io-C/DME8i-ES/DME8o-ES/DME4io-ESを示します。

NOTE DME本体の詳細についてはDME本体に付属の取扱説明書を、DME Designerの詳細についてはDME Designer取扱説明書(PDFファイル)をそれぞれご覧ください。

NOTE オーディオ接続にCobraNet™を使用する場合は、DME Designerでバンドル番号などのCobraNet設定が必要になります。

NOTE オーディオ接続にEtherSound™を使用する場合は、AuviTran社のソフトウェアAVS-ESMonitorでルーティングなどのEtherSound設定が必要になります。

<http://www.auvitran.com/>

バージョンの互換性

- DMEのファームウェアをV3.5以前からV3.8以上にDME Designerを使用してアップグレードすることはできません(SP2060、ICP1は除く)。アップグレードするには、ヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。
- DMEのファームウェアをV3.8以上からV3.5以前にDME Designerを使用してダウングレードすることはできません(SP2060、ICP1は除く)。ダウングレードするには、ヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。
- V3.5以前のDME Designerを使用して、DME V3.8以上のファームウェアを書き込むことはできません。
- V3.5以前のDMEとV3.8以上のDMEを混在してデバイスグループを組む場合、デバイスグループマスターに設定するDMEのファームウェアはV3.8以上にしてください。

セットアップの流れ

ソフトウェアのインストール(3ページ)

- DME DesignerとDME-N Network Driverをインストールします。(5ページ)
- USB-MIDI Driverをインストールします。(5ページ)

基本セットアップ(7ページ)

- 1台のDMEを直接コンピューターに接続(USBケーブル経由)
 - Mini-YGDAIカードをDME Designer上で設定します(カード使用時のみ)。
 - コンポーネントの配置と接続を行いません。
 - オンライン接続し、サウンド出力をチェックします。

高度なセットアップ(13ページ)

- 複数台のDMEをコンピューターに接続(Ethernetケーブル経由)
 - DME本体側のネットワーク設定をします。
 - コンピューター側のネットワーク設定をします。
 - DME-N Network Driverを設定します。
 - 基本セットアップと同様にオンライン接続し、サウンド出力をチェックします。

DMEの詳細情報(20ページ)

■ 外部コントローラーとの接続

EthernetまたはGPI経由でのリモートコントローラーの接続について説明します。

■ DME64N/24Nのパネル操作によるネットワーク設定

DME64N/24Nのネットワーク設定をパネル操作でセットアップする方法について説明します。

■ DMEシリーズおよび周辺機器関連ウェブサイト

Speaker Processorコンポーネントのライブラリーデータ、Mini-YGDAIカード、タッチパネルコントローラー (AMX/Creston)に関するオンライン情報についてご案内します。

DME-N Network Driverの詳細設定(23ページ)

問題の解決とヒント(25ページ)

ソフトウェアのインストール

DMEシリーズのデバイスをコンピューターに接続して使用するために、ヤマハのプロオーディオサイトにある「ダウンロード」ページから、DME Designer Combo InstallerとUSB-MIDI Driverをダウンロードします。

<http://proaudio.yamaha.co.jp/downloads/>

使用するコンピューターのOSに対応するドライバーを選択しダウンロードしてください。

NOTE DME Designer V3.8は、Windows7、Windows Vista、Windows XPに対応しています。

動作環境

OS	Windows 7: Ultimate / Professional / Home Premium Windows Vista: Ultimate / Business / Enterprise Windows XP: Professional / Home Edition
ハードディスク空き容量	300MB以上
ディスプレイ	1280×1024ピクセル以上、High Color (16bit)以上
その他	マウスなどのポインティングデバイス Ethernetポート(100Base-TX/10Base-T)またはUSBポート

Windows Vista / Windows 7

CPU	32bit: 1.4GHz以上のIntel Core/Pentium/Celeronファミリーのプロセッサ 64bit: Intel 64対応のプロセッサ
メモリー	1GB以上 (Windows 7 64bit版では2GB以上)

Windows XP

CPU	1GHz以上のIntel Core/Pentium/Celeronファミリーのプロセッサ
メモリー	256MB以上

NOTE 上記の動作環境は、DME Designerバージョン3.8.0に対するものです。最新のバージョンおよび動作環境については、下記URLに最新情報が掲載されています。

<http://proaudio.yamaha.co.jp/>

また、お使いのコンピューターによっては、動作環境以上の条件を必要とする場合があります。

NOTE コンピューターの省電力設定をOFFにしてご使用ください。

NOTE Windows Vistaをお使いの場合、USB-MIDI Driver はV3.0以上、DME-N Network DriverはV1.2以上をお使いください。
Windows 7をお使いの場合、USB-MIDI Driver はV3.0.4以上、DME-N Network Driver はV1.2.1以上をお使いください。

■ DME Designer Combo Installerのダウンロード

SPX2000	
▶ SPX2000_Editor_V2.1.1:Win_Vista&P2000_Mac_OSX	Mar.4.2008
DME64H, DME24H, ICP1	
▶ DME-N, ICP1 V3 Firmware (V3.09:Win) Version3	Jun.13.2008
▶ DME Designer V3 Combo Installer (DME Designer V3.0.1; DME-N Network Driver V1.2.0:Win_Vista&P2000) Version3	Jun.5.2008
▶ DME Designer V2 Combo Installer (DME Designer V2.1.0; DME-N Network Driver V1.2.0:Win_Vista&P2000)	Apr.20.2007
DME Designer Firmware (Older versions: Win), DME-N Network Driver (For older versions: Win)	
DME Satellite	
▶ DME Satellite V3 Firmware (V3.09:Win) Version3	Jun.13.2008
▶ DME Designer V3 Combo Installer (DME Designer V3.0.1; DME-N Network Driver V1.2.0:Win_Vista&P2000) Version3	Jun.5.2008
▶ CobraNet Firmware (V2.11.6:Win)	Dec.15.2006
▶ DME Designer V2 Combo Installer (DME Designer V2.1.0; DME-N Network Driver V1.2.0:Win_Vista&P2000)	Apr.20.2007
DME Designer Firmware (Older versions: Win), DME-N Network Driver (For older versions: Win)	
SP2060	

このリンクを利用して、必要なソフトウェアをダウンロードします

NOTE DME-N Network Driverは個別にダウンロードできますが、DME Designer Combo Installerをダウンロードすれば、DME DesignerとDME-N Network Driverを一度にダウンロードし、インストールできます。

DME Designer :

この専用アプリケーションを使用すると、DMEのシステム設定ができます。

NOTE DME本体が接続されていない場合でも、DME Designerをオフラインで使用できます。

DME-N Network Driver :

このドライバーは、コンピューターと、1台または複数台のDMEをEthernet経由で接続する際に使用します。

■ USB-MIDI Driverのダウンロード

このドライバーは、コンピューターと1台のDMEを、USBケーブルで接続する際に使用します。

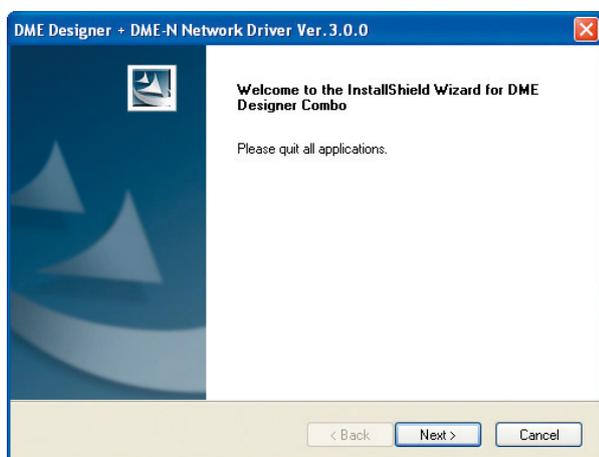
YAMAHA	
Yamaha Home Find Yamaha Products About Yamaha	
search GO	
CA Home Products Topics Support Downloads Training	
CA Home > Downloads > Firmware & Software	
Downloads Firmware & Software	
<ul style="list-style-type: none"> Downloads Firmware & Software Manual Library Brochure Library Photo Library CAD Library Data Sheets A&E Specifications Technical Documents & Data 	
General Utilities	
MIDI Drivers	
▶ USB-MIDI Driver (V3.0.1-3:Win_Vista)	Feb.19.2008
▶ USB-MIDI Driver (V2.1.5-3:Win_XP2000)	Feb.19.2008
▶ USB-MIDI Driver (V1.2.2:Win_Me98)	Aug.26.2005
▶ USB-MIDI Driver (V1.1.1:Mac_OS9)	Apr.24.2008
▶ USB-MIDI Driver (V1.0.7:Mac_OS8.6-9.2.2)	Oct.13.2005
▶ CBX-MIDI Driver (V2.0.0:Win)	Jun.7.2005

使用するコンピューターのOSに対応するドライバーを選択してダウンロードします。

各ソフトウェアをダウンロードしたら、圧縮ファイルを解凍し、解凍したフォルダーをデスクトップなどのわかりやすい場所においてください。

DME DesignerとDME-N Network Driverのインストール

下記の手順に従い、DME Designer Combo Installerを使用してDME DesignerとDME-N Network Driverをインストールします。



1 ダウンロードした圧縮ファイルの解凍先にある「setup.exe」をダブルクリックします。DME Designer Combo Installer用セットアップウィザードが表示されます。

2 画面上に表示された指示に従い、ソフトウェアをインストールします。

はじめにDME Designerがインストールされ、次にDME-N Network Driverがインストールされます。

NOTE インストーラーのバージョンと異なるDME DesignerおよびDME-N Network Driverがインストールされている場合、これらをアンインストールしてからインストールを開始します。この場合、アンインストールしたあと、コンピューターを再起動する必要があります。また初めてソフトウェアをインストールする場合でも、コンピューターを再起動させる必要があります。その際に表示される指示に従ってコンピューターを再起動してください。

USB-MIDIドライバーのインストール

1 コンピューターから、マウスとキーボード以外のUSB機器をすべて外します。

2 管理者権限のあるアカウントでWindowsにログオンします。

アプリケーションソフトや、使用していないウィンドウもすべて閉じてください。

3 DMEの電源をオフにします。

4 コンピューターのUSB端子と、電源をオフにしたDMEのUSB端子をUSBケーブルで接続します。

NOTE 接続の際、USBハブなどは使用しないでください。

5 接続しているDMEの電源をオンにします。

6 コンピューター画面に「新しいハードウェアの検出ウィザード」が表示されたら[キャンセル]をクリックします。

NOTE Windows 7の場合、この画面は表示されません。かわりに、「ドライバーのインストールに失敗しました」というメッセージが表示されますが、そのままインストールを続けてください。

NOTE この画面が表示されるまでに数分かかる場合があります。

7 ダウンロードした圧縮フォルダーの解凍先にある「setup.exe」をダブルクリックします。「インストールの準備」が表示されます。準備が完了すると、次の画面へ進みます。

NOTE Windows Vista / Windows 7の場合、「ユーザーアカウント制御」の警告が表示されたときは、[続行]または[はい]をクリックしてください。

8 「Yamaha USB-MIDI Driver用の InstallShieldウィザードへようこそ」という画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。

NOTE インストールされているUSB-MIDIドライバーの数がWindows OSでの上限(最大10)に達しているときは、エラーメッセージが表示されます。この場合、不要なUSB-MIDI ドライバーを削除(27ページ)したあと、Yamaha USB-MIDI Driverの再インストールを実行してください。

コンピューターの設定によっては、インストール中に下のような警告画面が表示される場合がありますが、[はい]、[続行]または[インストール]をクリックしてください。



Windows XP



Windows Vista / Windows 7

9 インストールが終わると、インストールが終了した旨の画面が表示されますので、[完了]をクリックします。

NOTE この画面が表示されるまでに数分かかる場合があります。

10 再起動を促す画面が表示されますので、画面の指示に従ってコンピューターを再起動します。

これで、ドライバーのインストールは完了しました。

NOTE Windows XP x64 / Windows Vista / Windows 7の場合は、この画面は表示されません。再起動は不要です。

基本セットアップ

1台のDMEを直接コンピューターに接続(USBケーブル経由)

このセクションでは、最も基本的な構成である、1台のコンピューターで1台のDMEをコントロールする方法について説明します。

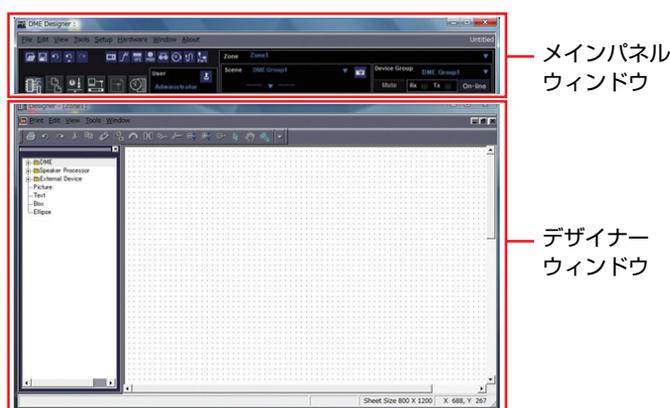


1 準備

DME Designerを起動する前に、必ずDME本体の電源をオンにしてから、USBケーブルを使用してコンピューターに接続してください。

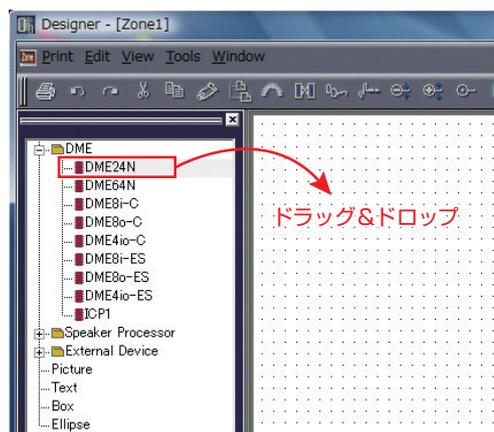
1-1 DME本体を接続したら、DME Designerを起動します。

DME Designerを起動すると、新規プロジェクトが作成され、デザイナーウィンドウには新規ゾーンが表示されます。

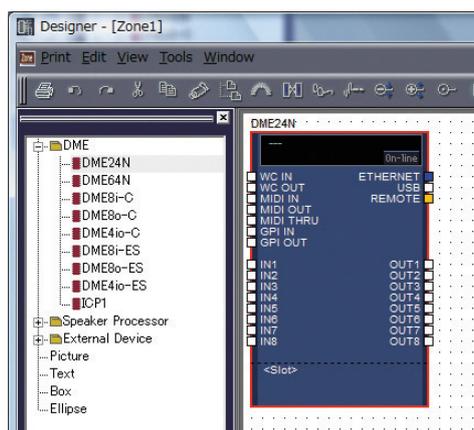


1-2 デザイナーウィンドウで、該当するDMEを配置します。

左側にあるリストで、接続されているDME(ここではDME24N)をダブルクリックするか、選択してドラッグ&ドロップします。



この作業を行なうと、「Device Group and Sampling Frequency Settings」ウィンドウが表示されます。
[OK]ボタンをクリックして、次に進みます。

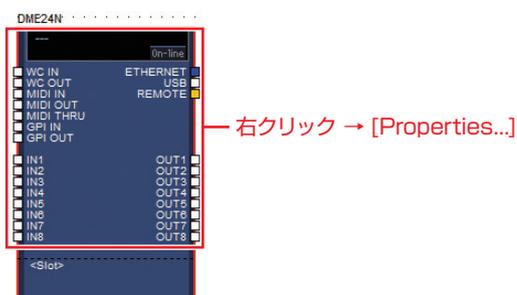


NOTE 接続されているDMEが1台のみの場合、グループ設定は必要ありません。サンプリングレートはあとで変更できます。

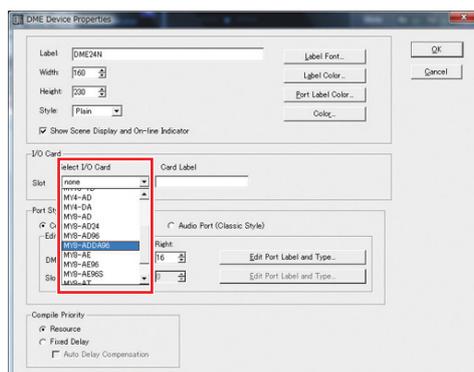
2 Mini-YGDAIカードの設定(DME64N/24N)

以下の設定は、DME24NまたはDME64NにオプションのMini-YGDAIカードを挿入する場合にのみ必要となります。
Mini-YGDAIカード(拡張カード)を使用しない場合には、次のステップ(3. コンポーネントの配置と接続)に進んでください。

2-1 Mini-YGDAIカードがDME本体に挿入されていることを確認したうえで、該当するDMEのアイコンを右クリックし、表示されたメニューの一番下の[Properties...]を選択します。

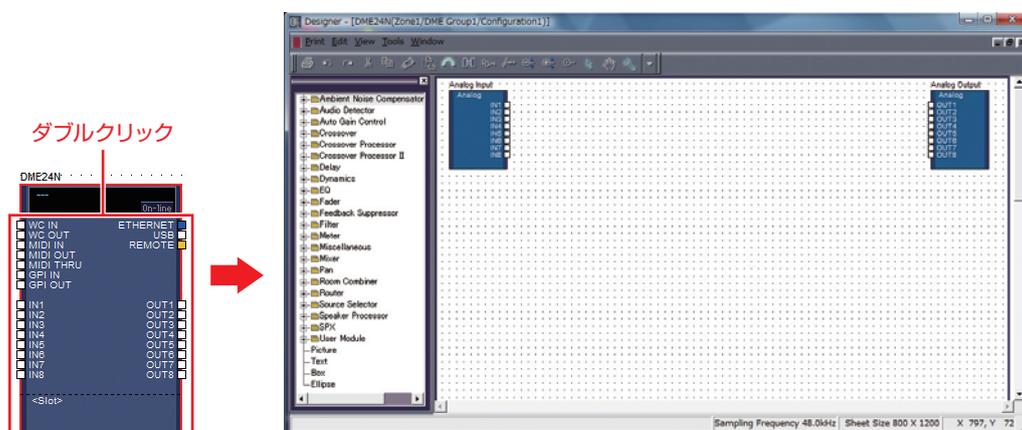


2-2 「DME Device Properties」ウィンドウが表示されたら、下図のように挿入されている拡張カードを選択し、[OK]ボタンをクリックします。

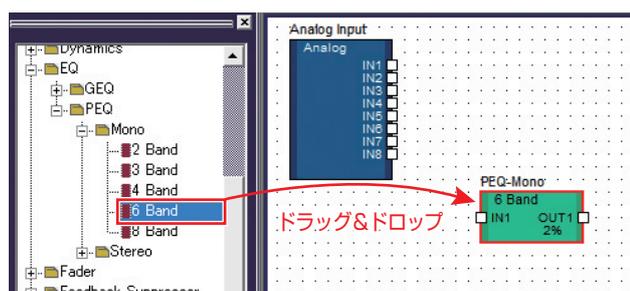


3 コンポーネントの配置と接続

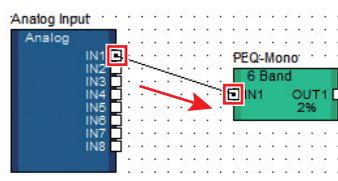
3-1 使用するDMEのアイコンをダブルクリックし、「Configuration」ウィンドウを表示します。



3-2 左側のリストの中から目的のコンポーネントを「Configuration」エリアにドラッグ&ドロップします。



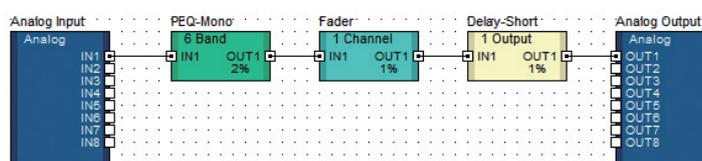
3-3 目的の入力または出力ポートをクリックして、カーソルをコンポーネントのポート上に動かし、再度クリックして接続します。



NOTE 「Configuration」エリア内なら、マウスを使って自由にコンポーネントを配置できます。

NOTE コンポーネントまたはワイヤーを削除するには、コンポーネントまたはワイヤーをクリックし、赤くなったことを確認してからキーボードの<Delete>キーを押します。

下図のように、同じ要領で必要なコンポーネントの配置と接続が完成したら、次にシーンを作成し、DMEに設定データを送信します。



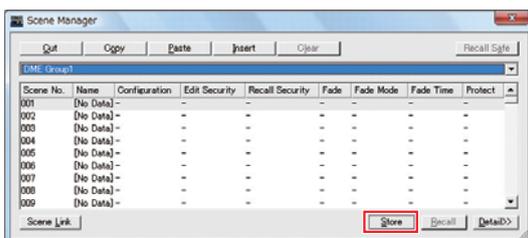
4 シーン作成

これまでに作成したデータをDMEに送信するには、シーンを最低1つストア(保存)する必要があります。下図の手順に従ってシーンのストアを行ないます。

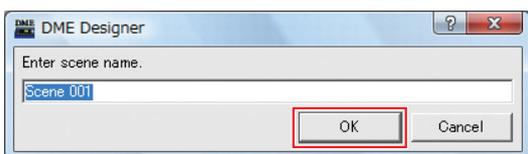
4-1 メインパネルウィンドウの[Scene Manager]ボタンをクリックし、「Scene Manager」ダイアログボックスを表示します。



4-2 「Scene Manager」ダイアログボックスで、[Store]ボタンをクリックします。



4-3 [OK]ボタンをクリックします。



5 オンライン接続

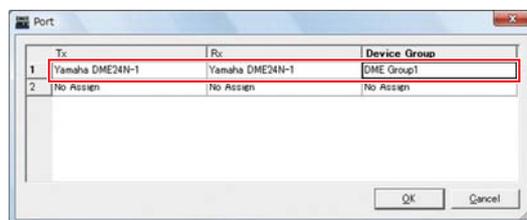
DMEと同期させてオンライン接続し、DME Designerの設定をDMEに送信します。

5-1 メインパネルウィンドウの[Communication Port]ボタンをクリックし、「Communication Port」ダイアログボックスを表示します。



5-2 「Communication Port」ダイアログボックスが表示されたら、下図のようにポート1のTx、Rx、Device Groupの設定を確認します。ポート1に「No Assign」の項目がある場合には、クリックしてオプションのリストを表示し、適切なオプションを選択します。

NOTE USB-MIDI ドライバーをインストールしたにもかかわらず、適切なオプションが表示されない場合は、DME本体が正しく接続されていることを確認してください。

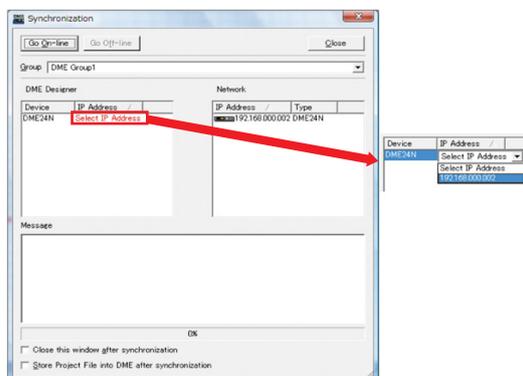


5-3 メインパネルウィンドウの[On-line]ボタンをクリックします。



5-4 「Synchronization」ウィンドウが表示され、赤い文字で「Select IP Address」と表示されます。このメッセージをクリックし、ドロップダウンメニューから目的のIPアドレスを選択します。

NOTE 目的のIPアドレスが表示されない場合は、コンピュータとDME本体が正しく接続されていることを確認してください。



5-8 同期が完了すると、「Saving the Designer file after synchronization will enhance the speed of next synchronization. Do you want to save now? (同期完了後にDesignerファイルを保存すると、次回から同期にかかる時間を短縮することができます。いま保存しますか?)」とダイアログが表示されます。ファイルを保存する場合、[Yes]ボタンをクリックします。

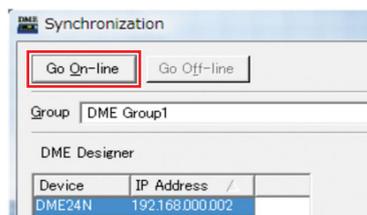
5-9 「Synchronization」ウィンドウに戻り、[Close]ボタンをクリックします。

同期処理が完了してDMEとオンラインになると、メインパネルウィンドウの[On-line]ボタンが点灯します。

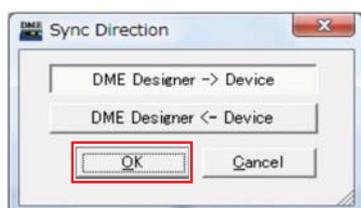


NOTE オフラインにするには、[On-line] ボタンをクリックして消灯します。

5-5 [Go On-line] ボタンをクリックします。



5-6 「Sync Direction」ダイアログボックスが表示されたら、[DME Designer -> Device]が選択されていることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。

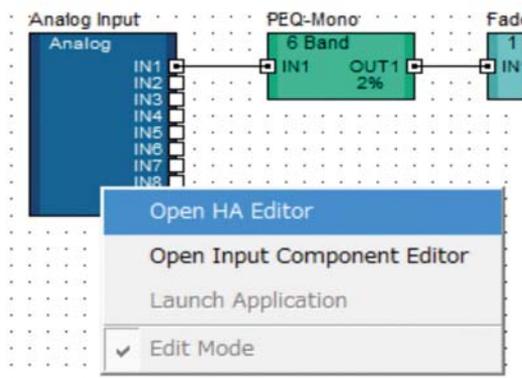


5-7 「Synchronizing will cause audio to mute. Is this OK? (同期処理中は音声がなくなります。よろしいですか?)」とダイアログが表示されたら、[Yes]ボタンをクリックします。

6 サウンド出力のチェック

DME24N、DME8i-C、DME4io-C、DME8i-ESおよびDME4io-ESの場合、システムからのサウンド出力をチェックするには、事前にヘッドアンプを設定しておく必要があります。

6-1 [Analog Input]コンポーネントを右クリックし、コンテキストメニューから[Open HA Editor]を選択します。



ヘッドアンプを設定する「Analog」ダイアログボックスが表示されます。



初期設定では、ゲインは+10dBuに設定されています(設定可能な最低ゲイン)。

6-2 接続したオーディオ機器に適合するレベルにゲインを調整します。

NOTE [Gain]は、適合する感度レベルを表示します。大部分のプロフェッショナルオーディオ機器(XLRコネクタ使用)の感度は+4dBuであるため、このような場合には[Gain]に「4」が表示されるようにレベルを設定します。
マイクフォンなどの音源を入力する場合には、ダイヤルを時計回りに回転させ、入力レベルを適切なレベルに調整します。入力メーターが示すレベルが-18dB付近となるように調整することをおすすめします。

高度なセットアップ

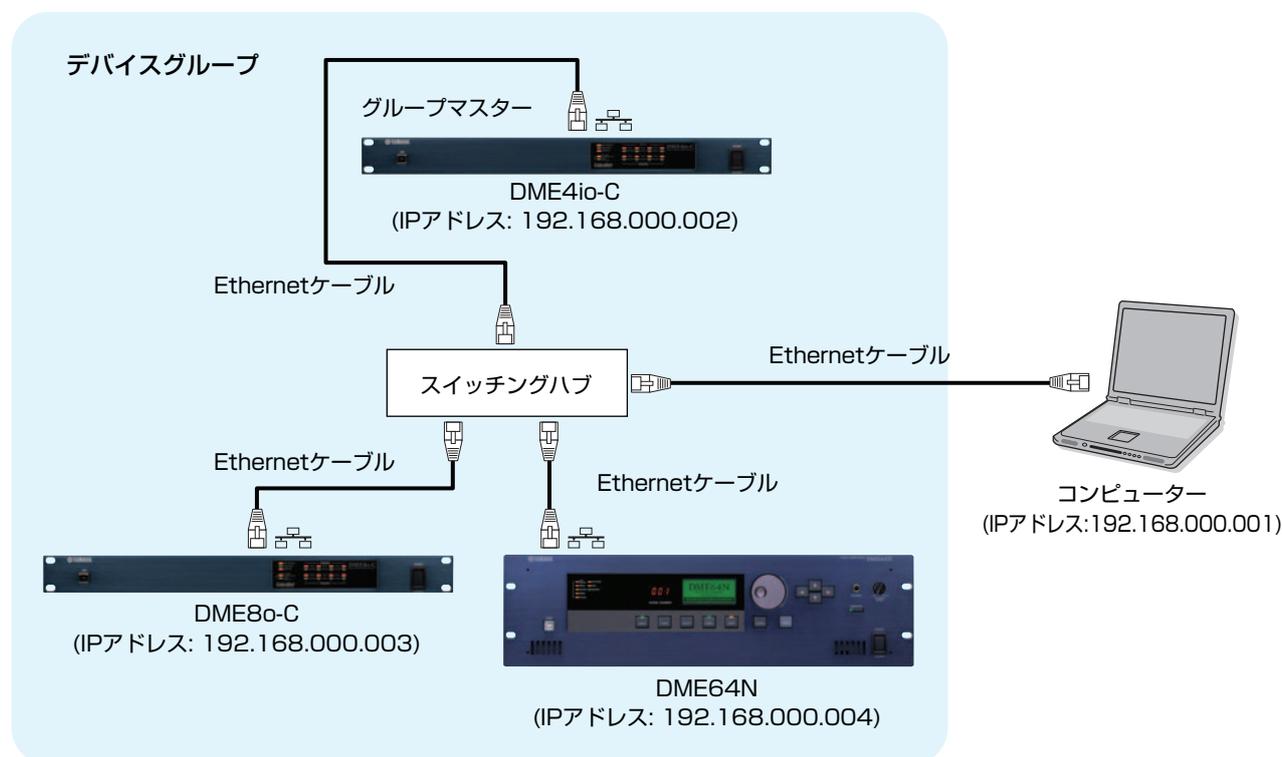
複数台のDMEをコンピューターに接続(Ethernetケーブル経由)

次の2つのケースでは、USBケーブルの代わりに、Ethernetケーブル経由で接続する必要があります。

- 単一のデバイスグループで2台以上のDMEを操作する場合(スイッチングハブ使用)。
- DMEとコンピューターが離れていてUSBケーブルでは届かない場合。

NOTE オフィスでお使いのコンピューターのネットワークポートを使ってDMEと接続する場合、DMEネットワークとオフィスのネットワークとでIPアドレスを切り替える必要があります。このような場合には、USB経由で接続するか、市販のEthernet/USBインターフェースの使用をおすすめします。市販のEthernet/USBインターフェースを使えば、切り替えの必要はありません。

設定例



NOTE 複数台のDMEがある場合、DMEは「デバイスグループ」単位でDME Designerからコントロールされます。デバイスグループ全体はマスターとなるDME経由でコントロールされるため、デバイスグループ内で必ず1台をマスターに設定します。

NOTE V3.5以前のDME64N/24Nと、V3.8以降のDME64N/24NもしくはDME Satelliteが混在したデバイスグループを組む場合、V3.5以前のDME64N/24Nはマスターに設定することができません。

NOTE コンピューターとデバイスグループマスターのDMEとの間は、USBケーブルで接続することもできます。また、スレーブのDMEにUSBケーブルで接続してマスターのDMEと通信することもできます。

NOTE 100Base-TX/10Base-T対応スイッチングハブを使用してください。

NOTE スwitchングハブとDMEシリーズ間のケーブルの長さは、最大100メートルです。ただし、使用するスイッチングハブやケーブルの品質により、この長さを保証できない場合もあります。

NOTE 電磁干渉防止のためには、STPケーブル(シールド付きツイストペアケーブル)をお使いください。

NOTE 複数台のDMEシリーズを使用する場合は、LINK MODEを合わせて設定してください。LINK MODEは100Base-TXで設定することをおすすめします。

DME本体側のネットワーク設定

DMEをネットワーク接続する前に、USB経由で接続したDME Designerを使用して、DMEごとにデバイスグループおよびIPアドレスを設定します。

初期設定では、すべてのDMEにIPアドレスとして192.168.000.002が割り当てられています。

作業を行なう前に、USB-MIDI Driverがインストールされていることを確認してください。

NOTE 同じ機種種のDME(DME64N、DME24N、DME Satellite)には、複数のユニットに対して同じドライバーを使用することができます。DME Satelliteの場合は、共通のUSBドライバーを使用できます。

NOTE DME64N/24Nをお使いの場合は、DME64N/24のパネル操作でIPアドレスを設定することもできます (21ページ)。また、ICP1は本体のパネルで設定してください。ICP1の設定については、DME Designer取扱説明書の巻末にある「ICP1の設定と操作」を参照してください。

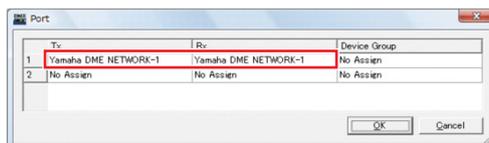
1 コンピューターとDMEをUSBケーブルで接続し、DMEの電源を入れます。



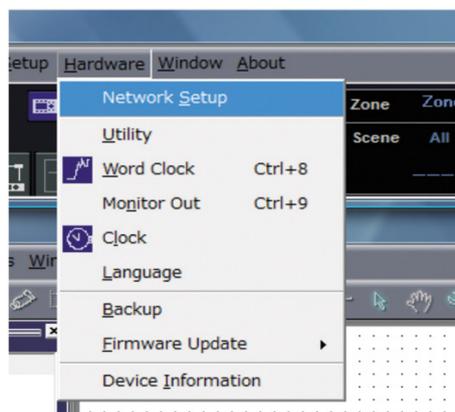
2 DME Designerメインパネルウィンドウの[Communication Port]ボタンをクリックして、「Communication Port」ダイアログボックスを表示します。



3 [Tx](送信)欄に「YAMAHA USB OUT 0-1」または「Yamaha DME NETWORK-1」、[Rx](受信)欄に「YAMAHA USB IN 0-1」または「Yamaha DME NETWORK-1」を選択して、[OK]ボタンをクリックします。



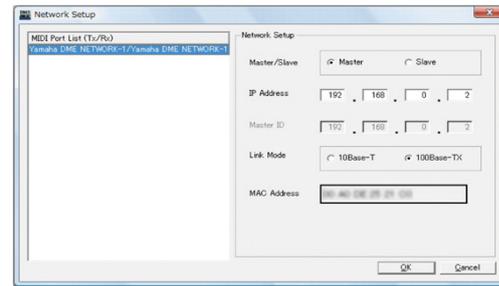
4 メインパネルウィンドウの[Hardware]メニューから[Network Setup]をクリックして、「Network Setup」ダイアログボックスを表示します。



- 5 「Network Setup」ダイアログボックスで以下のような設定になっていることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。

Master/Slave	Master
IP Address	192.168.0.2
Master ID	—
Link Mode	100Base-TX

グループマスター (例ではDME4io-C)の設定



NOTE グループマスターの場合は、初期設定をそのまま使用してかまいません。

- 6 同様の手順でスレーブとなる機器(例ではDME8o-CとDME64N)にスレーブの設定とIPアドレスの変更を行います。

	DME8o-C	DME64N
Master/Slave	Slave	
IP Address	192.168.0.3	192.168.0.4
Master ID	192.168.0.2	
Link Mode	100Base-TX	

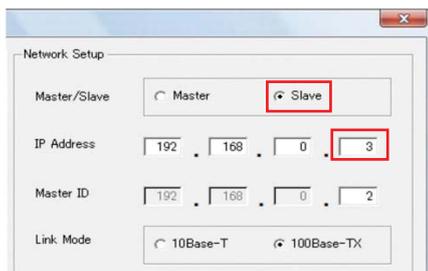
NOTE サブネットマスクは、「255.255.255.0」固定です。

NOTE 設定できるホストアドレスの範囲は、マスターが2~253、スレーブが3~253です。

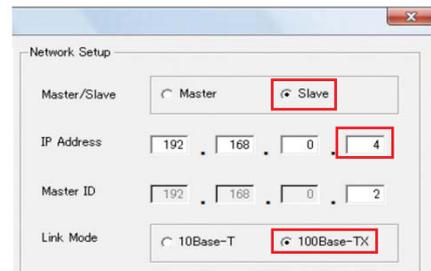
NOTE 特に必要がない限り、IPアドレスはプライベートアドレスに設定してください(192.168.0.2~192.168.255.253)。グローバルアドレスに設定する必要がある場合は、ネットワーク管理者に相談した上で設定してください。

NOTE [OK]ボタンをクリックしたときに、DME本体にエラーが表示されますが、無視してください。グループ設定がまだ行なわれていないため、エラーが表示されます。

スレーブ (例では DME8o-C) の設定



スレーブ (例では DME64N) の設定



コンピューター側のネットワーク設定

コンピューターがDMEとネットワーク通信するために、まずコンピューターのIPアドレスおよびTCP/IPフィルタリングを設定します。

■ Windows Vista / Windows 7の場合

- 1 [スタート] → [コントロールパネル] → [ネットワークと共有センター] または [ネットワークの状態とタスクの表示] をクリックまたはダブルクリックします。

「ネットワークと共有センター」が表示されます。

- 2 「ネットワークと共有センター」の左側の「タスク」一覧の中から[ネットワーク接続の管理]または[アダプターの設定変更]をクリックし、[ローカルエリア接続]をダブルクリックします。

「ローカルエリア接続の状態」ダイアログボックスが表示されます。

NOTE 「ユーザーアカウント制御」ダイアログボックスが表示されることがあります。[続行]ボタンまたは[はい]ボタンをクリックしてください。

NOTE 「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスが表示された場合、手順4に進みます。

- 3 [プロパティ] をクリックします。

「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

NOTE 「ユーザーアカウント制御」ダイアログボックスが表示されることがあります。[続行]ボタンまたは[はい]ボタンをクリックしてください。

- 4 [ネットワーク] タブの[インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IPv4)]を選択して、[プロパティ] をクリックします。

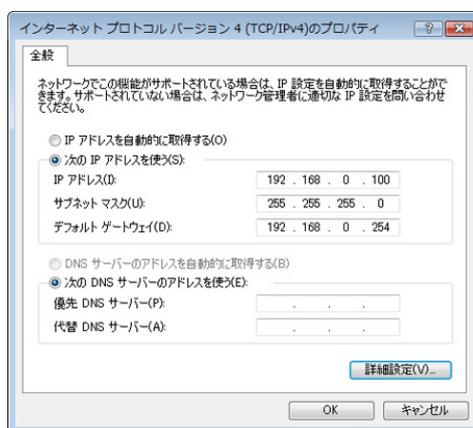
「インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IPv4)のプロパティ」ダイアログが表示されます。

- 5 [全般] タブの[次のIPアドレスを使う] をクリックします。

- 6 [IPアドレス]にコンピューターのIPアドレス、[デフォルトゲートウェイ]にゲートウェイのIPアドレス、[サブネットマスク]に「255.255.255.0」を入力します。

NOTE ネットワークアドレスはDMEと同じで、ホストアドレスだけ異なるIPアドレスを設定してください。

NOTE ゲートウェイが存在する場合はゲートウェイのIPアドレスを設定してください。ゲートウェイが存在しない場合は空いているIPアドレスに設定してください。サブネットが設定されているLANでは、IPアドレスと同じサブネット内に設定する必要があります。



- 7 [OK] ボタンをクリックします。

■ Windows XPの場合

- 1 [スタート] → [コントロールパネル] を選択します。

「コントロールパネル」が表示されます。

- 2 「コントロールパネル」がカテゴリー表示の場合は、[クラシック表示に切り替える] をクリックします。

- 3 [ネットワーク接続] → [ローカルエリア接続] をダブルクリックします。

「ローカルエリア接続の状態」ダイアログが表示されます。

NOTE 「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスが表示された場合、手順5に進みます。

4 [全般]タブの[プロパティ]をクリックします。
「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログが表示されます。

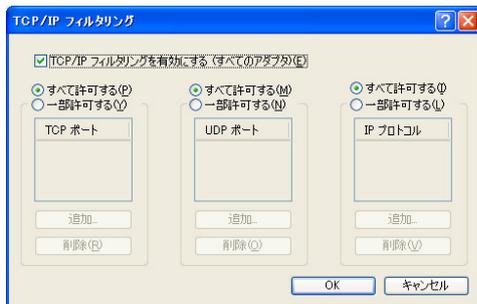
5 [全般]タブの[インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選択して、[プロパティ]をクリックします。

「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」ダイアログが表示されます。

6 [詳細設定]をクリックして、「TCP/IP詳細設定」ダイアログで[オプション]タブの[プロパティ]をクリックします。

「TCP/IPフィルタリング」ダイアログが表示されます。

7 TCPポートの[すべて許可する]を選択して[OK]ボタンをクリックします。



「TCP/IP詳細設定」ダイアログに戻りますので、[OK]をクリックします。

「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」ダイアログに戻ります。

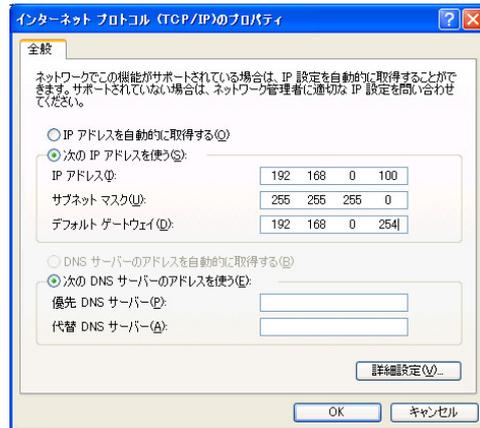
NOTE 設定を変更する場合には、ネットワーク管理者にご相談ください。

8 [次のIPアドレスを使う]をクリックします。

9 [IP アドレス]にコンピューターのIPアドレス、[デフォルトゲートウェイ]にゲートウェイのIPアドレス、[サブネットマスク]に「255.255.255.0」を入力します。

NOTE ネットワークアドレスはDMEと同じで、ホストアドレスだけ異なるIPアドレスを設定してください。

NOTE ゲートウェイのIPアドレスはホストアドレスを254などに設定してください。



10 [OK]ボタンをクリックします。

NOTE コンピューターをオフィス内で使用している場合など、すでにIPアドレスを取得している場合には、現在の設定を書き換えるか、USBケーブルを使用してDME本体に接続することにより、DMEと通信できます。



DMEのネットワーク接続

必要な設定が完了したら、接続例(13ページ)のようにEthernetケーブルですべてのDMEとコンピューターをスイッチングハブ経由でネットワーク接続します。

DME-N Network Driverの設定

コンピュータがDMEを認識するために、デバイスグループマスターとなるDMEのIPアドレスやデバイス名などを登録しておく必要があります。

NOTE DME-N Network Driverの詳細設定については、23ページをご覧ください。

1 [スタート] → [コントロールパネル] を選びます。

コントロールパネルが開きます。

2 「コントロールパネル」の表示設定がカテゴリ表示の場合は、以下のように表示方法を切り替えます。

Windows XPの場合

「コントロールパネル」の左上の[クラシック表示に切り替える]をクリックしてください。

Windows Vistaの場合

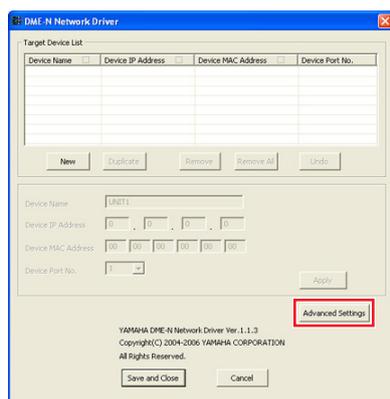
「コントロールパネル」の左上の[クラシック表示]をクリックしてください。

Windows 7の場合

「コントロールパネル」の右上の[表示方法]をクリックして、[大きいアイコン]または[小さいアイコン]を選択してください。

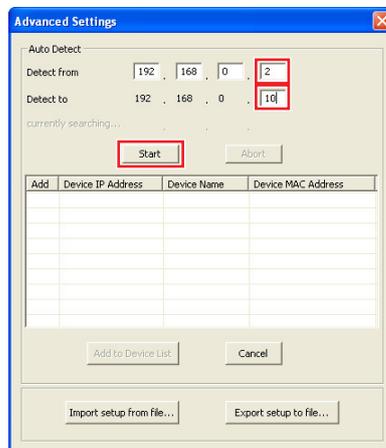
3 「DME-N Network Driver」アイコンをダブルクリックします。

「DME-N Network Driver」ダイアログボックスが開きます。



4 [Advanced Settings] ボタンをクリックして、「Advanced Settings」ダイアログボックスを開きます。

このダイアログボックスでは、ネットワークに接続されたDMEの自動検出を行ないます。



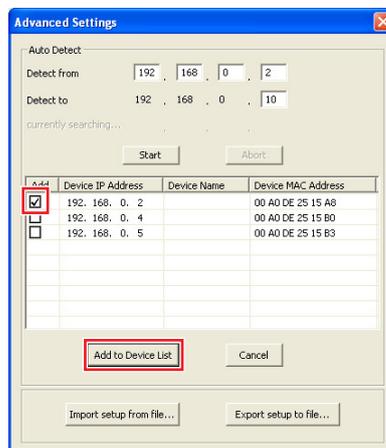
5 [Detect from] 欄と [Detect to] 欄で、DMEを自動検出するIPアドレスの範囲を設定して、[Start] ボタンをクリックします。

DMEの自動検出が開始されます。

NOTE ここでは例として、1台目のデバイスのIPアドレスを192.168.0.2、2台目を192.168.0.3、3台目を192.168.0.4とします。したがって、[Detect from]の最後の数字は2以下に、[Detect to]の最後の数字は4以上に設定する必要があります。(検索範囲が大きすぎると、検出にかなりの時間がかかることに注意してください)

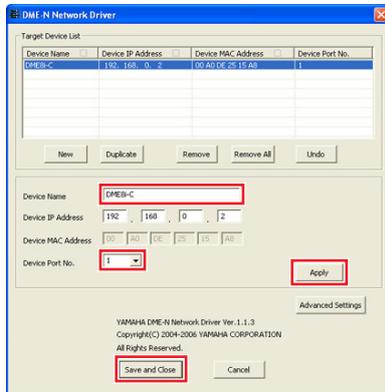
6 DMEの自動検出が終了したら、デバイスグループマスターとなるDMEの[Add]欄にチェックを付けて、[Add to Device List] をクリックします。

「Advanced Settings」ダイアログボックスが閉じて、「DME-N Network Driver」ダイアログボックスに戻ります。



NOTE IPアドレスが検出できなかった場合は、手動でDMEを登録してください(23ページ)。

- 7 Target Device ListでデバイスグループマスターとなるDMEを選択して、Device Name(デバイス名)とDevice Port No.(MIDIポート番号)を設定し、[Apply]ボタンをクリックします。



Device Name (デバイス名)

DME Designer上でポート名として表示されます。

Device Port No. (MIDIポート番号)

1に設定してください。DME64N/24Nの場合は、2に設定することもできます。

- 8 [Save and Close]ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

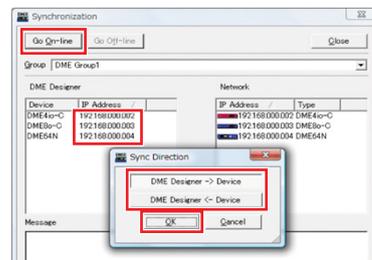
オンライン接続

- 1 基本セットアップ(7ページ)の手順1-1からと同様にコンポーネントの配置や接続などを行ないます。
- 2 メインパネルウィンドウから[On-line]ボタンをクリックします。



- 3 [Select IP Address] をクリックし、すべてのDMEのIPアドレスが正しく表示されていることを確認し、[Go On-line]ボタンをクリックします。

- 4 [Sync Direction] ウィンドウが表示されたら、[DME Designer-> Device]が選択されていることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。



基本セットアップと同様に、「サウンド出力のチェック」を行なってください(12ページ)。

外部コントローラーの接続

DMEシリーズのオプションのコントローラーとして、ICP1、CP4SW、CP4SF、CP1SFがあります。DMEシリーズ本体への接続方法や取り付け手順については、お買い上げのコントロールパネルに付属の取扱説明書、設定などの詳細は「DME Designer取扱説明書」をご覧ください。

Ethernet経由の接続

インテリジェントコントロールパネルICP1

汎用インターフェース(GPI)経由の接続

コントロールパネルCP4SF、CP1SF、またはCP4SW



ICP1



CP4SF



CP1SF



CP4SW

HINT ヒント

GPIページで入力信号をチェック

GPI IN端子経由で入力された信号をリアルタイムでモニターできます。DME64N/24N本体のユーティリティ画面のGPIページ、またはDME Designerの「Utility」ダイアログボックスのGPIタブでモニターできます。信号がGPI IN端子に正しく入力されたことをモニターできたにもかかわらず、DME本体が意図したとおりに動作しなかった場合、DMEの設定データに問題がある可能性が高くなります。それ以外の場合は、DME本体に問題がある可能性が高くなります。

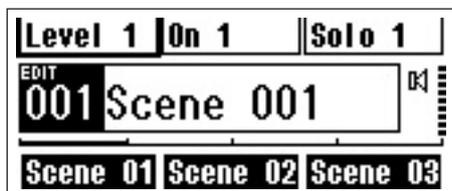
GPIケーブルの最大長

コア径0.65mm以上のCPEVケーブルは、最大100mの長さまで使用できます。

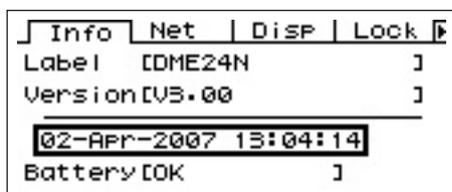
DME64N/24Nのパネル操作によるネットワーク設定

DME64N/24NのデバイスグループおよびIPアドレスは、DME本体のフロントパネルから設定することもできます。

- 1 DME64N/24N本体の電源を入れます。
- 2 [HOME]ボタンを押して、メイン画面を表示させます。



- 3 [UTILITY]ボタンを2秒以上押して、ユーティリティ画面を表示させます。



- 4 [UTILITY]ボタンを繰り返し押し、ユーティリティ画面のNetページを表示させます。



- 5 [▲][▼]ボタンを押して、カーソルを以下の各設定項目に移動して[ENTER]ボタンを押します。

設定変更用のダイアログが表示されます。以下のネットワーク設定を行なってください。ダイヤルを回して項目を変更して[ENTER]ボタンを押すと、設定が変更されます。

① Master/Slave (マスター /スレーブ)

デバイスグループのマスター /スレーブを選択します。デバイスグループ内で必ず1台をマスターに設定してください。その他のDMEは、スレーブに設定してください。

② IP Address (IPアドレス)

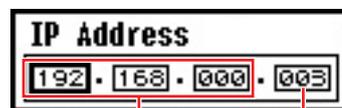
DMEのIPアドレスを設定します。同じデバイスグループのDMEは、同じネットワークアドレスに設定します。

NOTE DMEが1台(マスター)の場合は、「192.168.0.2」に設定することをおすすめします。

NOTE サブネットマスクは、「255.255.255.0」固定です。

NOTE 設定できるホストアドレスの範囲は、マスターが2~253、スレーブが3~253です。

NOTE 特に必要がない限り、IPアドレスはプライベートアドレスに設定してください(192.168.0.2~192.168.255.253)。グローバルアドレスに設定する必要がある場合は、ネットワーク管理者に相談した上で設定してください。



ネットワークアドレス ホストアドレス

③ Master ID (マスター ID)

上記①でスレーブに設定した場合、そのデバイスグループのマスターのホストアドレスを指定します。マスターでは設定できません。

④ Link Mode (リンクモード)

100Base-TXが選択されていることを確認してください。

- 6 [HOME]ボタンを押して戻り、変更を保存します。

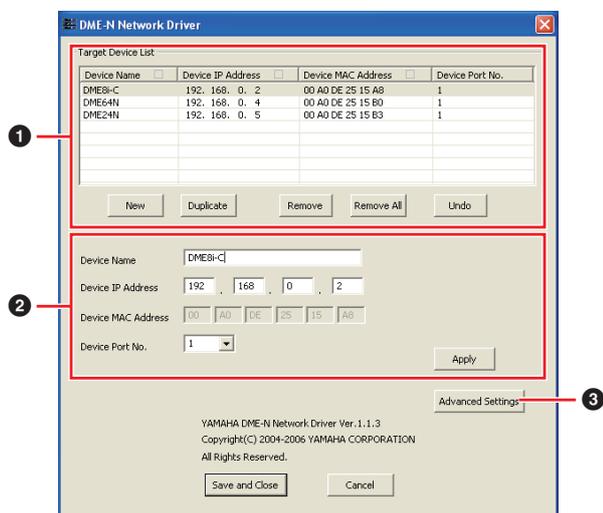
DMEシリーズおよび周辺機器関連ウェブサイト

- DMEに関する最新情報は、ヤマハプロオーディオ ウェブサイトから入手できます。
<http://proaudio.yamaha.co.jp>
- DMEのファームウェアやDME Designerなどの最新バージョンは、ヤマハプロオーディオ ウェブサイトからダウンロードできます。
http://proaudio.yamaha.co.jp/downloads/firm_soft/index.html
- DMEシリーズのSpeaker ProcessorコンポーネントのライブラリーデータやDMEリモートコントロールプロトコル仕様書は、ヤマハプロオーディオ ウェブサイトの「ダウンロード」ページから入手できます。
<http://proaudio.yamaha.co.jp/downloads/index.html>
- 他社製タッチパネルコントローラーに関する情報については、こちらをご覧ください。
AMXホームページ：<http://www.amx.com/>
CRESTRONホームページ：<http://www.crestron.com/>

DME-N Network Driverの詳細設定

「DME-N Network Driver」ダイアログボックス

[スタート] → [コントロールパネル] → [DME-N Network Driver]をダブルクリックすると、「DME-N Network Driver」ダイアログボックスが開きます。ネットワーク上にあるDMEの情報を登録します。



① Target Device List

登録されているすべてのDME-N Network Driverと通信する機器の名前、IPアドレス、MACアドレス、MIDIポート番号のリストを表示します。タイトルバーをクリックするとソートされます。

このリストで選択したDME-N Network Driverと通信する機器の情報は、デバイス情報(②)で表示/変更できます。

Device Name

Device IP Address

Device MAC Address

Device Port No.

DME-N Network Driverと通信する機器の名前、IPアドレス、MACアドレス、MIDIポート番号をそれぞれ表示します。詳しくはデバイス情報(②)をご覧ください。

[New]ボタン

新しくDME-N Network Driverと通信する機器を追加します。デバイス情報(②)で情報を編集して[Apply]ボタンをクリックすると追加されます。

[Duplicate]ボタン

新しくDME-N Network Driverと通信する機器を追加します。選択していた機器の情報がコピーされますので、デバイス情報(②)で情報を編集して[Apply]ボタンをクリックすると追加されます。

[Remove]ボタン

選択したDME-N Network Driverと通信する機器を削除します。リストの一番下以外の行を削除すると、削除した行より下の行は上にシフトします。

[Remove ALL]ボタン

すべてのDME-N Network Driverと通信する機器を削除します。

[Undo]ボタン

直前の状態に設定を戻します。一度だけ有効で、コントロールパネル起動時やUndoを行なった直後は、グレーアウト表示されて使用できません。

② デバイス情報

Target Device Listで選択したDME-N Network Driverと通信する機器の情報を表示/設定します。

[Device Name]

Target Device Listで選択したDME-N Network Driverと通信する機器の名前を表示/設定します。初期値はUNIT 1～UNIT 256で、半角英数字で任意に設定できます。

[Device IP Address]

Target Device Listで選択したDME-N Network Driverと通信する機器のIPアドレスを設定します。IPアドレスの確認/設定方法については、[16ページ](#)をご覧ください。

NOTE [IP Address]の設定が正しくない場合、通信できません。

[Device MAC Address]

Target Device Listで選択したDME-N Network Driverと通信する機器のMAC (Media Access Control)アドレスを設定します。各機器本体のMACアドレスは製造時に決定され、変更することはできません。MACアドレスを設定するのは、IPアドレスの設定が誤って設定された場合に、誤った機器にデータが送られないようにするためです。

NOTE Device MAC Addressの設定が正しくないと、通信できません。

NOTE Device MAC Addressの設定は、ネットワークに接続中の機器に対しては変更できません。

[Device Port No.]

Target Device Listで選択したDME-N Network Driverと通信する機器のMIDIポート番号を設定します。この値は、デバイスIDとしても使用します。DME64N/24Nでは1または2に、DME Satelliteでは1に設定します。

NOTE Device Port No.の設定が正しくないと、通信できません。

[Apply]ボタン

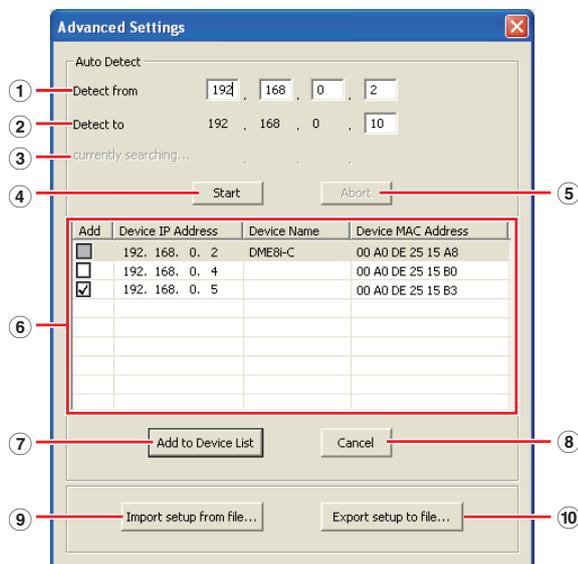
Device Name、Device IP Address、Device MAC Address、Device Port No.の変更を反映します。Target Device List (①)で[New]ボタンや[Duplicate]ボタンをクリックしたあとは、このボタンをクリックするまでDME-N Network Driverと通信する機器は追加されません。

③ [Advanced Settings]ボタン

「Advanced Settings」ダイアログボックスが開きます。高度なセットアップを行ないます。詳細は次章の「Advanced Settings」ダイアログボックスをご覧ください。

「Advanced Settings」ダイアログボックス

「DME-N Network Driver」ダイアログボックスの[Advanced Settings]ボタンをクリックすると、「Advanced Settings」ダイアログボックスが開きます。DME-N Network Driverと通信できる機器の自動検出や、設定情報のセーブ/ロードができます。



■ Auto Detect

接続されている機器を自動的に検出します。最大で、***.***.***.1~***.***.***.254の254個のアドレスから検索します。

NOTE MACアドレスを検出できる機器は、コンピューターと同じサブネットにあるものだけです。MACアドレスを検索したい場合は、コンピューターをあらかじめ同じサブネットに接続してIPアドレスを適切に設定してください。

① Detect from

検索を開始するIPアドレスを設定します。

② Detect to

検出を終了するIPアドレスを設定します。

③ currently searching

検出中のIPアドレスを表示します。検出中以外は表示されません。

④ [Start]ボタン

自動検出を行ない、検出デバイスリスト(⑥)を更新します。検出中は、グレーアウト表示されて使用できません。

⑤ [Abort]ボタン

自動検出を中止します。検出中以外は、グレーアウト表示されて使用できません。

⑥ 検出デバイスリスト

検出したすべての機器のリストを表示します。初期状態では、何も表示されません。

[Add]

チェックすると、[Add to Device List]ボタンでTarget Device Listに追加されます。すでに登録されている機器(IPアドレス)はチェックできません。

[Device IP Address]

検出した機器のIPアドレスです。

[Device Name]

検出した機器の名前が登録されている場合は、表示します。登録されていない場合は何も表示されません。

Device MAC Address

検出した機器のMACアドレスです。

⑦ [Add to Device List]ボタン

[Add]欄でチェックがついている機器を、Target Device Listに追加します。

⑧ [Cancel]ボタン

設定を更新せずにダイアログを閉じます。

⑨ [Import Setup from file]ボタン

異なる環境で作業される場合、あらかじめ保存しておいた設定を読み込むことができます。クリックすると「既存のファイルを開く」ダイアログが開きます。ファイルを選択し、[開く]ボタンをクリックすると、設定を読み込みます。

⑩ [Export setup to file]ボタン

異なる環境で作業される場合、設定を保存しておくことができます。クリックすると「作業中のファイルを新しい名前で保存」ダイアログが開きます。ファイル名を入力して[保存]ボタンをクリックすると、設定をファイルに保存します。

問題の解決とヒント

問題点	考えられる原因	修正方法
DME DesignerからUSB経由でDMEをコントロールしようとしたが、正しく作動しない。	USBケーブルを接続し、DMEの電源をオンにする前に、DME Designerを起動した。	DME Designerを起動する前に、USBケーブルが接続され、DMEの電源がオンになっていることを確認してください。
	USB-MIDI Driverの「Thru ON/OFF」パラメータが「OFF」に設定されていない。	[Start] → コントロールパネル → [Yamaha USB-MIDI Driver]を選択し、[Thru ON/OFF]パラメーターが「OFF」に設定されていることを確認してください。
	DME Designer用のUSBポートと、他のMIDIアプリケーション用のUSBポートに、同じポートを選択した。	DME Designerと他のMIDIアプリケーションが異なるポートを使用するようにポート設定を変更してください。
	MIDIデバイスの登録数がWindowsの制限を超えている。	Windows OSでのインストールと登録が可能なMIDIデバイスドライバ数は最大で10となります。このような場合、デバイスを他のUSBポートに接続することにより、異なるデバイスとして認識されるようになる場合があります。その結果、「見かけ上」制限を超えることとなります。したがって正しく動作しない場合、USB-MIDI Driverを削除(27ページ)したあと、再インストールをしてください。
	使用しているUSB-MIDI Driverが、DME Designerがサポートする最新バージョンではない。	ヤマハのプロオーディオサイト(http://proaudio.yamaha.co.jp)から最新のUSB-MIDI Driverをダウンロードし、インストールしてください。
	MIDIのPort設定が「USB-1」または「USB-2」に設定されている。	DME64N/24Nのユーティリティ画面の[MIDI]ページのPort設定が「USB-1」または「USB-2」に設定されている場合(DME Satelliteの場合は、DME DesignerのUtilityダイアログのMIDIタブで確認できます)、MIDIデータもUSB経由で通信され、USBケーブルを使ったDME Designerとの通信ができなくなる場合があります。このような設定は避けてください。
同期処理中にコンパイルエラーが発生する。	DSPのトータルのリソース消費量が上限を超過した。	必要のないコンポーネントを削除します。また、リソース使用量が少ないコンポーネントをいくつか交換したり、該当するコンポーネント間に処理負荷を分散することによって、DSPのトータルのリソース消費量が増加した場合でもコンパイルが正常に完了することがあります。同期を実行する前にコンパイルが正常に行なわれるかを確認するには、Analyze機能を使うと便利です。
	コンポーネント間の配線が、複数の出力ポートから単一の入力ポートに接続されている。	配線のコンフィギュレーションを変更し、各出力ポートがそれぞれ単独の入力ポートと接続するようにします。必要ならば、マトリクスミキサーなどのコンポーネントを使用して、複数の出力信号を一つの信号にまとめることができます。
コンポーネントや配線が追加されない。	DME Designerがオンライン接続されている。	「Synchronization」ウィンドウ中の[Go Off-line]をクリックして、オフラインにしてください。
	デザイナーウィンドウが編集モードになっていない。	[Tool]メニューの[Edit]の横にチェックマークをつけてください。
	現在のユーザーが編集を許可されていない。	ログオフしてから新しいユーザーまたは管理者として再度ログオンしてください。ユーザーによる編集を許可する場合は、「Security」ウィンドウで[Edit]オプションをオンに設定してください。
ユーザーモジュールが何もリストに表示されない。	コンテンツフォルダー ([File]メニュー → [Preference] → [ContentsFolder])が変更された。または「UserModule」フォルダーが移動した。	「ContentsFolder」フォルダーの設定と、「UserModule」フォルダー内にユーザーモジュールファイル(.umf)があることを確認してください。
「Navigator」ウィンドウ内でコンフィギュレーションを切り替えられない。	オンライン接続中は、カレントシーンに適合しないコンフィギュレーションに切り替えることはできません。	目的のコンフィギュレーションに対応するシーンに切り替えてください。

問題点	考えられる原因	修正方法
ユーザーモジュールをダブルクリックしても、「User Module」ウィンドウが開かない。	問題のユーザーモジュールが、[Open User Module Design Window] を選択した上で保存されている。	Saveダイアログを開いて[Open User Module Editor]を選択し、ユーザーモジュールを再保存してください。
スロットインコンポーネントを右クリックし、コンテキストメニューから[Open]を選択してもエディターが表示されない。	該当のスロットインコンポーネントがエディターを装備していない。	—
「Synchronization」ウィンドウのメッセージエリア内に「Reset Config...」メッセージが長時間表示される。	シーンが多数保存されている場合、処理に時間がかかることがあります。	—
モニター出力のポートを選択できない(DME64N/24Nのみ)	既に使用されている(ワイヤーで結線されている)出力ポートはモニター出力先として選択できません。	空いている出力ポートを選択してください。

注意点	
USBポートとドライバーのインストール	複数のUSBポートが装備されたコンピューターの場合、ドライバーが各ポートに個別にインストールされます。したがってインストール完了後に、元々使用していたポートとは別のポートを使用して接続する場合、ドライバーを再度インストールする必要があります。これを避けるには、DME接続専用ポートをあらかじめ決めておくか、コンピューターのすべてのポートにドライバーをインストールしておくようにします。また使用するDMEの機種(DME64N、DME24N、DME Satellite)によって、USBドライバーが異なることにも注意してください。同じ機種のDMEであれば、複数のユニットに対して同じドライバーを使用することができますが、たとえばDME64NとDME24Nのように機種が異なる場合には、異なるUSBドライバーが必要となります。(USBドライバー自体は同じものですが、インストールの際に使用するINFファイルが異なります)。
USBハブの使用は避ける	コンピューターに標準のUSBポートに直接DMEを接続してください。USBハブを使用して接続すると、コンピューターがDMEを認識しないことがあります。
市販のセキュリティソフトウェア	アンチウィルス、アンチスパイウェアなどのインターネットセキュリティアプリケーションがコンピューターにインストールされている場合、そのファイアウォールによってDME-N Network Driverがブロックされ、DME本体の接続とリモート操作を行えなくなることがあります。P2Pアプリケーションなど、常時バックグラウンドで作動している通信ソフトとの互換性にも注意してください。
パソコンの節電オプション	ノートパソコンの場合、節電オプションの一部にネットワーク接続を自動的に切断するものがあります。この機能により、その時点でオンライン接続しているDME本体との接続が切断します。このような現象が見られたら、節電オプションをチェックしてください。
無線ネットワーク	市販の無線ネットワークアクセスポイントを利用して、無線通信機能を備えたノートパソコンと接続することができます。そのためにはネットワークについて良く理解しておくことが必要です。また、詳細な設定法についてはアクセスポイントのユーザーマニュアルを必ず参照してください。
ワードクロックの設定	DME Designerを使用して新しいファイルを作成する場合、ワードクロックの初期設定は「INT48k」となっています。ワードクロックスレーブとしてDMEの操作を行なうシステムでは、オンライン接続する前にこのワードクロック設定を変更する必要があります。初期設定を変更しないままDMEをオンライン接続すると、システム内の他のユニットとのワードクロックの同期が行えなくなり、クリック音が発生して他のユニットに損傷を与える可能性があります。DME Designerを使用する際には、できるだけクロック設定を行なうことをおすすめします。
DMEの初期化	問題が生じた際、DMEを初期化することで問題を解決できる場合があります。特に、シーンリコール時にDMEがフリーズした場合（起動中またはオンライン接続時）にはこの方法が役立ちます。オプションO2(Delete All Data)を選択しないようにご注意ください。このオプションを選択すると、DME本体のファームウェアまで削除されてしまいます。この場合、ファームウェアを更新しない限りDMEが使用できなくなります。初期化に関する詳細については、DME64N/DME24N取扱説明書の「DME64N/DME24Nを初期化する」、またはDME Satellite取扱説明書の「DME Satelliteを初期化する」を参照してください。
Analyze機能の使用	DME Designerを使用してコンフィギュレーションを作成したら、Analyze機能を使用してコンフィギュレーションのチェックを行なうことをおすすめします。この機能を使わない限り、作成したコンフィギュレーションが実行可能であるかどうかを完全に判断することはできないことにご注意ください。リソースメーターだけではオンラインにできるかどうかはわかりません。したがって、必ずAnalyze機能を使用して最終的なチェックを行なうようにしてください。また、サンプリング周波数を正しく設定してからAnalyze機能を使用してください。たとえば、48kHzで解析結果がOKでも、実際に96kHzで使用するとDSPのリソースが足りなくなる場合があります。サンプリング周波数は、メインパネルウィンドウの[Hardware] → [Word Clock]ダイアログボックスで設定できます。

注意点	
自動バックアップ機能とオンライン接続	バージョン3以降のDME Designerを使用してオンライン接続を行なった際、「Synchronization」ウィンドウの左下の[Store Project File into DME after synchronization]オプションがオンの場合、DME Designerはオンライン接続後にDME本体のメモリー内にコンピューターのカレントデータ (.daf) のバックアップを作成します。Waveファイルを使用している場合、同期化には通常の2倍以上の時間を要することに注意してください。また、オリジナルのプロジェクトファイルを不注意で削除したり、なくしてしまった場合、それ以降DME本体との同期を行なうことができなくなります。したがって安全のためファイルのバックアップを作成し、また「Synchronization」ウィンドウの[Store Project File into DME after synchronization]オプションか、または[File]メニューの「DME File Storage」機能を使用してDME本体上にもファイルのコピーを保存しておくことをおすすめします。

USB-MIDIドライバーの削除

Windows XPの場合

- 1 コンピューターから、マウスとキーボード以外のUSB機器をすべて外します。
- 2 コンピューターを起動して、管理者権限のあるアカウントでWindowsにログオンします。
アプリケーションを終了し、使っていないウィンドウをすべて閉じます。
- 3 [スタート] → ([設定] →) [コントロールパネル] → [プログラムの追加と削除] を選択し、「プログラムの追加と削除」を表示します。
- 4 左上の「プログラムの変更と削除」をクリックして選び、右側のリストの中から「Yamaha USB-MIDI Driver」を選択します。
- 5 [削除]をクリックします。
ダイアログが表示されますので、画面の指示に従って削除を実行してください。

Windows Vista / Windows 7の場合

- 1 コンピューターから、マウスとキーボード以外のUSB機器をすべて外します。
- 2 コンピューターを起動して、管理者権限のあるアカウントでWindowsにログオンします。
アプリケーションを終了し、使っていないウィンドウをすべて閉じます。
- 3 [スタート] → [コントロールパネル] → [プログラムと機能]または[プログラムのアンインストール]を選択し、「プログラムのアンインストールまたは変更」を表示します。
- 4 リストの中から「Yamaha USB-MIDI Driver」を選択します。
- 5 [アンインストール]をクリックします。
「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[許可]または[続行]をクリックします。
ダイアログが表示されますので、画面の指示に従って削除を実行してください。